

9月18日 AM6:30 JR 穂高駅前に集合。貸切バスで中房温泉・燕岳登山口へ向かい、小1時間で到着。総勢24名が準備を整え AM7:45 登山口を出発する。上空は曇天模様。秋色の林の中、いきなりの急坂を登り続け、第一ベンチ、第二ベンチと休憩をしながら登る。AM10:45 合戦小屋に到着。



林の中急坂を登る



合戦から霧の中花崗岩砂礫を登る



赤実をつけたナナカマド

小休止後、低木帯を抜け、尾根道に登り出すが、濃い霧に覆われ視界が効かない。花崗岩砂礫を踏み、枯れた草花の尾根道を登ると、PM12:30 燕山荘に到着する。山荘から燕岳への往復は1時間程かかる為、大天井ヒュッテへの道程時間を思案し、登頂を諦め、昼食後早速に出発する事とする。

PM1:10 燕山荘を出発。濃霧の中、ハイマツと花崗岩石が林立する稜線をすすむ。よく見ると砂礫上には、枯れたコマクサが群落したまま残っている。約2時間で喜作レリーフ地点を通過、大天井岳への分岐を左に見て、ガレた岩場をトラバースして降下すると、PM4:30 大天井ヒュッテに到着、泊す。



ハイマツと花崗岩石の稜線を行く 新道を開発した小林喜作のレリーフ 大天井岳を背景に朝陽を浴びて稜線を行く、

9月19日晴、AM6:30 大天井ヒュッテを出発。振り返る後方に大天井岳、その左に針ノ木岳、立山、剣岳そして裏銀の山々が連なる。稜線は、朝陽を浴びて眩しいほど輝き、登る右前面には、北鎌、東鎌尾根の岩稜線の頂点に、青空を突くように槍ヶ岳が雄々しく聳えている。AM10:00、西岳ヒュッテに到着。ここで小休止して、このコース最大の難所に備える。



西岳ヒュッテと穂高岳



西岳から望む槍ヶ岳と東鎌尾根



天上沢を眼下に東鎌を登る

西岳ヒュッテから、いよいよ緊張する痩せ尾根を進む。急斜面を下降し、最低鞍部の水俣乗越に1時間程で到着。ここから東鎌尾根の痩せた岩尾根に取り付く。尾根には、要所にハシゴ、クサリ整備がされ、それらを使用し、一步、一步高度をかせぐ。北側眼下には、高瀬川源流天上沢が流れ、南には、穂高岳連峰が連なり、中岳、大喰岳から流れ落ちる溪流が槍沢となって遥か眼下へ流れ下っている。途中、尾根上で展望を楽しみながら昼食を摂る。

昼食後、通称銀行落としと呼ばれる斜面をトラバースして通り過ぎると、登るにつれ槍ヶ岳の大岩峰が、徐々に迫ってくる。PM1:00 大槍ヒュッテを經由し、いよいよ険しさを増した岩稜線を登り続け、ようやく PM2:15 槍ヶ岳山荘に到着する。振り仰ぎ見る穂先は、登頂を目指す人達で大渋滞。1時間を遅らせて登る事とし、山荘に荷を置いて、待機する。

徐々に迫る槍の岩峰



槍の穂先を登攀する



山頂に見事登頂

PM3:15 渋滞が緩和しないと諦め、山頂を目指して登る事とする。穂先は寒風が吹く為、一枚余分に着込んでもらう。待ちながらも徐々に岩場を攀じり、高度を上げていく。穂先に取り付いて1時間30分、最後の10mの鉄ハシゴを登り切ると PM4:45 とうとう憧れの槍ヶ岳山頂に登頂する。「ヤッター!、おめでとう」。喜びの握手を交わし、お互いを称え合う。



槍山頂から望む、槍・穂高縦走路 3000m峰が続く



夕陽に照り輝き、赤く染まった槍ヶ岳 3180m

山頂からは360度の大展望。しかし午後の陽は既に傾き、西日を受けた山々の頂だけが照り輝き、その谷間は静かに夕暮れを迎えている。20分程で下山を始め、慎重に岩場を下降し、山荘に無事帰還、泊する。午後6時、西空を不気味に赤く染めて、笠が岳の稜線彼方に夕陽が沈んでいく。

雨に煙る槍沢を下る



赤実をつけた
オオカメノキ

赤実をつけた
ゴゼンタチバナ



槍沢上流脇を下る

9月20日夜半からの雨が降り続く、AM6:30 山荘を出発。濡れた岩礫帯をジグザグに下っていく。グリーンバンド下部は霧雲に覆われ、振り返る槍ヶ岳は雨に煙っている。AM10:10 槍沢ロッジ、AM11:40 横尾で昼食、徳沢、明神を経て PM3:00 上高地に全員無事到着。ここからタクシーに乗り PM5:00 松本で解散とした。「天を突く槍ヶ岳、急峻な尾根と迫りくる岩峰、その頂に立った感動は、いつまでも忘れられない思い出」になったことでしょう。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則